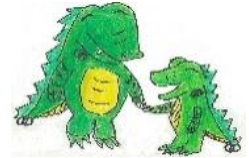




和邇小

# ニューズレター

NO.1



2023.4.10 文責 加藤



「子どもには子どもの世界がある」

私が教師になったとき、先輩教師から言われた言葉です。大人がむやみやたら入り込むものではない。大人が口を出すときは「人を傷つけたとき」「命に関わる時」「3回注意しても聞けないとき」だと。

ずっとそれを大事に心にとどめ教師という仕事をしてきました。

近年、大人が子どもの世界に立ち入らなくてはいけない機会がぐんと増えたように感じます。特に、「人を傷つけたとき」の場面が多いです。

同じ事象でも、心が傷つくときと傷つかないときがあります。

たとえば、道を歩いていて誰かとすれ違うときに肩が当たったとしましょう。「わざとぶつかられたかも・・・」「嫌がらせをされた・・・」と傷つく人がいるかもしれません。しかし、そこで「あ、ごめん。」と一言いえると、「こっちもごめん。」とお互い傷つかずにすむでしょう。

遊びの中でもそうです。楽しい遊びがいつのまにか相手を傷つけることになってしまっていることはよくあることです。

相手の表情を見て、「嫌がっているかな」と感じたら「ごめん、やりすぎたわ。」「今の嫌やった？」とすぐにやめられたり、嫌な気持ちになったときに人間関係が壊れるのを恐れず「嫌やしやめて。」「さすがにそれはないわ。」など意思表示をしっかりとできたりすると、傷つけたり傷ついたりはいらないでしょう。

今は、教師が仲裁に入り気持ちを伝えるのに力がかす場面が多々ありますが、やはり理想は自分たちの力で解決することです。大事なことは相手を思いやる心です。

思いやりを持ち、ほんの一言伝えるだけで人間関係がスムーズになります。

そんなことを、卒業までに学び、身につくよう職員全員で支えていきます。



「もう1年生?」「まだ1年生?」  
「もう6年生?」「まだ6年生?」

希望に満ちた新年度。親も学年があがったわが子にいろいろと期待していきます。「もう1年生だから、学校の準備は1人でできないといけないし本人に任せよう。」確かに1人でできるようになってほしいです。でも、生まれてまだ6年しか生きていない1年生。トイレトレーニングに手をかけてきたように、手をかけてあげてください。

「もう6年生なんだから、放課後の遊びの事は自分でなんとかしているし放っておこう。」確かに6年生にもなれば自分で友達と約束し、自転車で出かけ楽しく遊んで帰ってきます。でも、まだ12年しか生きていない6年生。SNSトラブルや不審者、事故などの危険に巻き込まれる可能性は高いです。しっかり目をかけ声をかけ心を繋いでおいてください。

つつい私たち教師も「もう6年生だから下級生の手本になるように!」など自覚を持たせることがあります。しっかり目をかけ心をかけて支えていきたいと思ひます。

## 「子育ては まず手をかけ 次に目をかけ そして心をはける」

と聞きます。低学年ほど手をかけ、高学年になるにつれ目をかけ、「大事に思っているよ」「応援しているよ」の気持ちが伝わるよう心をはけてほしいと思ひます。6年間で、様々な経験を積み、大きくなっていく子ども達。家庭と学校、地域で手をかけ目をかけ心をはかけ、のびのび大きく育ってほしいものです。



わにっこり

「あさる」

わにっこりが持つこのあさは、  
「あさる」→「あまあさる」→  
「あさる」